

信長探訪倶楽部 4月行事 朝倉討伐 浅井離反、金ヶ崎退き陣

先月の上洛戦での六角承禎の観音寺城攻めに続き、北畠具教の大河内城攻めが終わると、信長は「天下静謐」のためと称して、諸国の大名に「上洛せよ」と召集令状を発した。特に越前の朝倉義景には再三にわたり、上洛を求めている。ところが義景は信長の上洛命令を黙殺、ここで信長は「幕命に背いた」との大義名分のもと、朝倉討伐の軍を起こした。

信長軍は、若狭、越前の国境を越え、朝倉方の手筒山城、金ヶ崎城を陥落させ、続いて本拠一乗谷に向かおうとしたところ、近江の浅井長政の離反の知らせが届き、やむなく朽木谷の間道をとおり、ほうほうの態で京へ逃げ帰ることとなったのである。世にいう「金ヶ崎退き陣」である。

今回の行程は、楠から敦賀湾まで日本横断、365号線から8号線を片道4時間近く走る長旅となり、かつ手筒山城から金ヶ崎城まで往復2時間の山歩きとなり、いささか疲れた旅であったが、頂上からみる敦賀湾の素晴らしい景観に癒された旅であった。

次回は、「姉川の戦い」と題して、横山城～姉川の戦い～小谷城に関する意見交換、現地確認を行います。同行を希望する方は、楠交流会館入り口の案内をご覧ください。



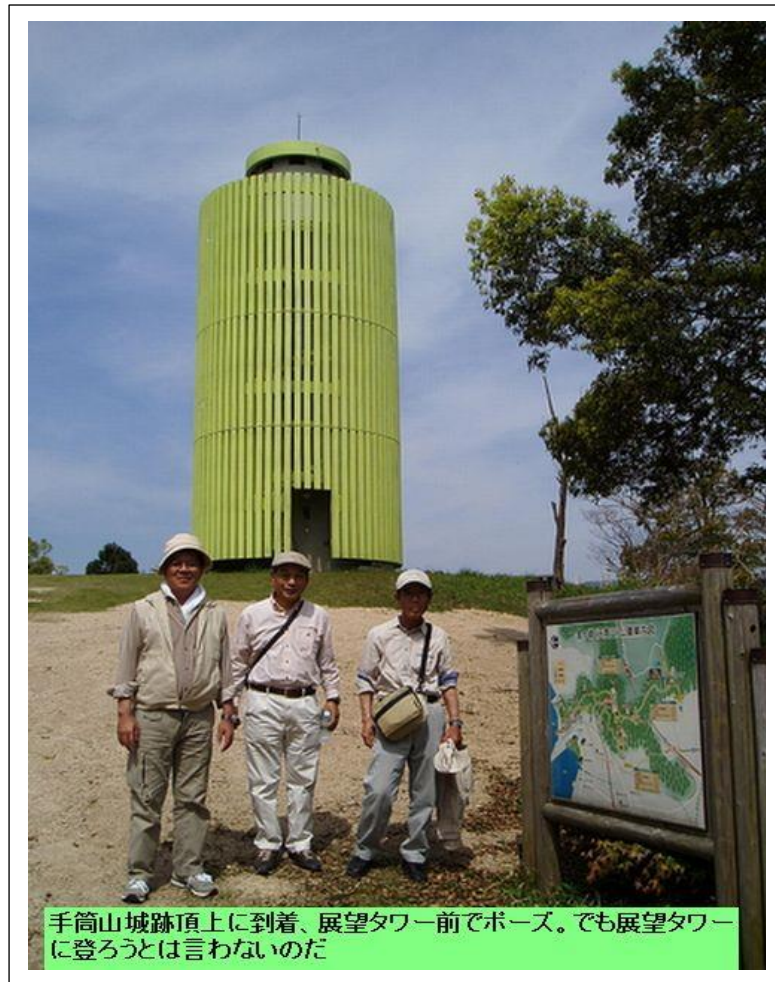
四月行事の「朝倉討伐」について、配布資料をベースに意見交換する倶楽部員4人



手筒山城に登る前に、すぐ目の前にある氣比神宮にお参りした。
越前一の宮、北陸道の総鎮守と称される古社を参拝



氣比神宮から手筒山城跡に到着。早速170m余の山城目掛けて
登山開始。いつもの通り、この段階の倶楽部員は元気、笑顔見て



手筒山城跡頂上に到着、展望タワー前でポーズ。でも展望タワーに登ろうとは言わないのだ



手筒山頂上から観た敦賀湾。信長に攻められた手筒山城主は、朝倉景恒配下の寺田采女正、同じ景色を見ていたことだろうか



手筒山城から尾根伝いに歩いて30分、着いたのが信長の「金ヶ崎退き陣」で有名な金ヶ崎城跡



金ヶ崎城主の朝倉景恒は、隣の手筒山城が落城すると朝倉援軍が到着しないことから、早々に開城してしまったという